	全体
男	61,566人
女	64,543人
合計	126,109人

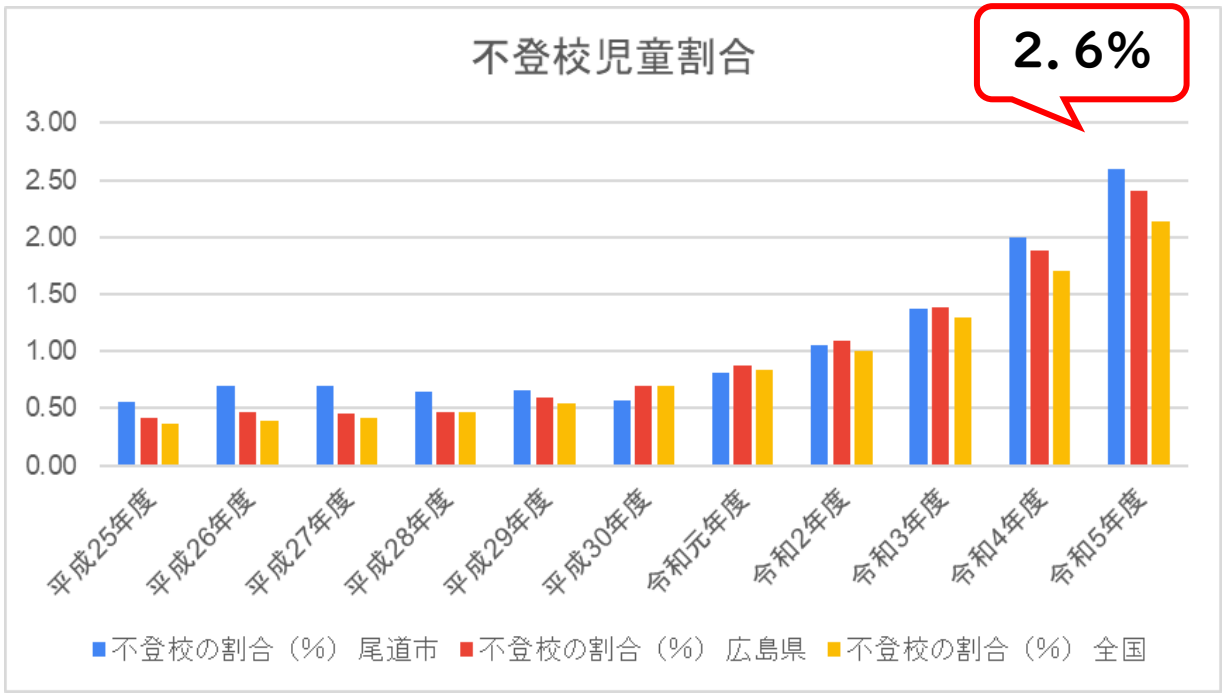
住民基本台帳人口(令和7年1月31日現在)

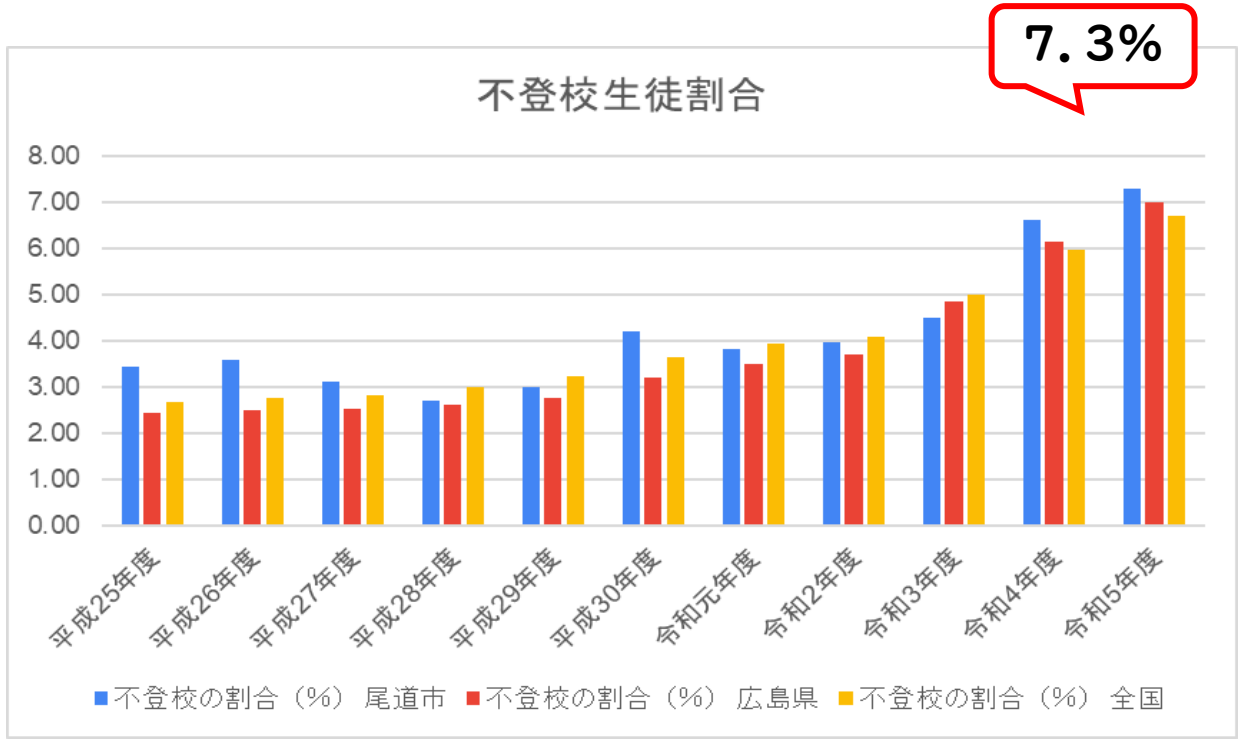
尾道市
ONOMICHI CITY

内、児童生徒数
8,321人
（令和6年5月1日現在）

不登校等児童生徒への支援の充実に向けて
～夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成～

尾道市における不登校児童生徒の状況





広島県によるSSR（スペシャルサポートルーム）推進校の状況

R7.1.31時点

学校名／人数	全校児童生徒数	不登校児童生徒数	SSR通室児童生徒数 （内　不登校者数）	SSR通室のち、改善した事例
長江中学校 R4～	187人	13人	9人 （6人）	・教室復帰　1人 ・オンラインで授業に参加している。 ・自己調整ができるようになった。
美木中学校 R4～	202人	18人	5人 （5人）	・教室復帰　1人 ・自分のよいところを見つけられるようになった。
因北中学校 R5～	169人	17人	7人 （4人）	・心の安定を図れるようになった。 ・教室、SSR、教育支援センターを選択して利用している。
高西中学校 R5～	450人	25人	31人 （18人）	・教室復帰　1人 ・欠席日数減、通室時間増
向東小学校 R6～	381人	5人	8人 （5人）	・友達とコミュニケーションを図れるようになった。

SSR推進校の支援の状況

個別のサポート計画

Step 01

長期目標　設定

本人の意向と保護者の意向を受け、1年間を見通した目標を設定する。

Step 02

学年会
児童生徒支援会議

2週間から1か月に1回の会議により、目標達成に向けて取り組むことを支援者全体で共有する。

Step 03

短期目標
（行動内容）設定

生徒の変容や取り組んだ成果と課題により、目標を見直し、修正・追加する。

Step 04

日々の見取り
ミニ支援会議

日々の見取りの中で気づいた変容等の状況を小さな単位で共有し、支援に生かせるようにする。

Step 05

一日の目標設定

登校・通室した際に、学習予定等、今日することを、できるだけ自己選択・自己決定する。.

Step 06

振り返り

自分の目標設定に対し、どの程度達成できたか、振り返る。

Step 03

短期目標
（行動内容）見直し

個別のサポート計画

別紙様式５－①

令和６年度　個別サポート計画

	学年　組	氏名	学級担任名（作成者）
児童生徒の状況	２年１組		
	状況	○ストレスやうつ的な症状が原因で朝、学校がある日は起きられないことが多い。１３時～１４時ごろ起床し、１４時３０分ごろ登校するか欠席することもある。休みの日は概ね9時間に起きることができる。 ○欠席は６年生の時年間４０日で欠席理由は頭痛・腹痛などである。 ○小学校入学時に母子分離不安があった。小学校5年生の１学期に約３ヶ月男子児童がからかったことなどをきっかけに保健室登校をしていた。 ○学力はある程度定着しているが、算数においては、学習した内容が定着していないところもある。 ○人と関わるのが苦手で自分の意志を発出することができない。白黒思考で自分の意志と違うことを提案されるとフリーズする。 ○中学校に入学して最初の３日間は入学式に参加できたり、教室で朝からみんなと一緒に過ごすことができたが、その後２日間は欠席した。入学式のあと本人と母親とでＳＳＲを見学して教室でみんなと過ごすことがしんどいときはＳＳＲを利用できることを説明していたので２日間欠席したあとＳＳＲを利用するようになった。水曜日は欠席している。午後からの登校が多い。学習の合間に卓球をして気分転換を図っている。 ○４月１４日からＳＳＲを利用するようになった。担からの登校が多かったが、最近は朝から登校することもある。初めは、５教科の学習をこつこつと行っていたがＳＳＲに慣れてくるに従って、気分転換に行っていた卓球に興味をもち、めきめきと上達してきた。１日の内１時間はＳＳＲ担当者と卓球をすることを楽しみにしているようである。 ○体育大会の練習は、参加しないと言っており体育大会当日も参加はむずかしそうである。 ○ええじゃんの練習を渡邊先生が動画で撮影したものを見せてくださったおかげで６時間目の振替りダンス練習のようすを体育館２階のギャラリーから見学することができた。 ○振返テストに向けてＳＳＲで数学を中心に学習を進めていったが、午後からの登校が多く、学習時間は少なかった。 ○数学の計算問題が苦手であることを表明したので７月から数学の正の数負の数の四則計算の基礎問題に取り組み始めた。 ○２学期の９月になってから部活動への参加意欲が少し減ってきた。登校するのも６時間目からが多く、卓球を楽しんでいるが学習意欲は減ってきている。 ○２学期末懇談では、生活リズムを整えることの大切さを本人に意識させるために生活リズムチェックシートに就寝時間や起床時間などを記入する取組を３学期から行うことを提案し、本人もやってみると話していた。学習については、技術は木材加工の作品づくりを引き続き行うことやタブレットを使った調べ学習を行いながら、少しずつ学びに向かう体制を整えていくことを母親に話した。 ○２月９日の総合の保護者参観日に囲明係で１年生の創作劇に参加した。 ○親がどんな話しているか担任が尋ねてみたところ、本人は親が学校へ行って勉強しなさいと言っていると話した。本人はプライドが高く、学習理解が進んでいないことを先生に悟られることを極端にきらっている。 ○３学期の学年末テストは音楽、数学以外は受験することができた。２年生に向けて数科を２教科くらいにしぼってテストを受験するのはどうか提案したところ２教科くらいなら集中して準備できると話していた。 ○２年生になって学習意欲が少しずつ高まってきた。国語と社会を中心にワークを使って学習を進めている。尾道みなと祭のえええじゃんに２学年の先生方の声かけなどの後押しもあって手具の練習係として参加することができた。野球部でも頑張っている。中間試験は２教科（国語・社会）にしぼって受けると言っていたが５教科全部受けるように準備している。びみルームでも勉強を頑張っている。５月１３日（月）には理科のワークにも取り組んでいた。 ○５月２０日２１日の中間試験は５教科全て受験することができた。 ○体育大会に向けてどれかの競技に参加できるよう取り組んだが６月８日の体育大会には参加できなかった。しかし朝から登校できて、図書室で仲間の様子を最後の競技までしっかりと見ることができた。
	合理的配慮		
	関係機関（医師名等）	福山明神館（睡眠）⇒抗不安薬を処方されている　　向島小児科（メンタル面）	
	その他		
本人の意向	自分のペースではあるが学習を進めていきたいという意思をもっている。	保護者の意向	基本的な生活習慣を整えながら学校に通ってほしいと考えている。行事には、仲間と一緒に参加してほしい。部活動は、がんばってほしい。
長期目標	学校行事にクラスの仲間といっしょに参加することができる。		

指導の実際

開始日	短期目標（行動内容）	目標達成に向けて取り組むこと	生徒の変容・取り組んだ成果と課題
4月17日	中間試験に向けて国語と社会の試験勉強に取り組む。	教科担当の先生と連携をとり、早めにワークなどの提出物のページ数を本人に知らせるとともに試験に向けた学習のポイントなどを説明しておく。	国語や社会の試験に向けてワークの問題に取り組むなど学習意欲が出てきた。試験の時は国語、社会だけでなく他の３教科も受験した。中間試験の５教科すべてを受験できて自信をつけたと思うが試験が終わると学習意欲が低下した。
5月27日	体育大会に参加して本人が出てみたい競技種目に出ることができる。	担任やクラスの生徒が参加に向けて声かけを行ったり、練習のスケジュール競技種目の内容などを本人に説明していく。	学級旗づくりを行う中でクラスの仲間が放課後、本人に教室に行って学級旗に手形をつける作業をやろうと誘ってくれたので学級に行って仲間と一緒に作業することができた。体育大会の学年種目や玉入れに出場してみたい気持ちはあった。当日、担任の先生や支援Coが参加を促したが参加することはできなかった。しかし、朝、８:３０ごろ登校することができ、３階の図書室から最後の競技までしっかり見ることができた。
6月11日	期末試験に向けて試験勉強に取り組む。	教科担当の先生と連携をとり、早めにワークなどの提出物のページ数を本人に知らせるとともに試験に向けた学習のポイントなどを説明しておく。また、クラスの仲間の試験に向けた学習方法などをＳＳＲに来て話してもらう。	

※概ね2週間程度で目標設定が適切か見直し、検討する。

※保護者に対して指導・支援方針の説明を行う資料とする。

長期目標　設定

本人の意向	自分のペースではあるが学習を進めていきたいという意思をもっている	保護者の意向	基本的な生活習慣を整えながら学校に通ってほしいと考えている。行事には、仲間と一緒に参加してほしい。部活動はがんばってほしい。
長期目標	学校行事にクラスの仲間といっしょに参加することができる。		

短期目標（行動内容）設定

指導の実際

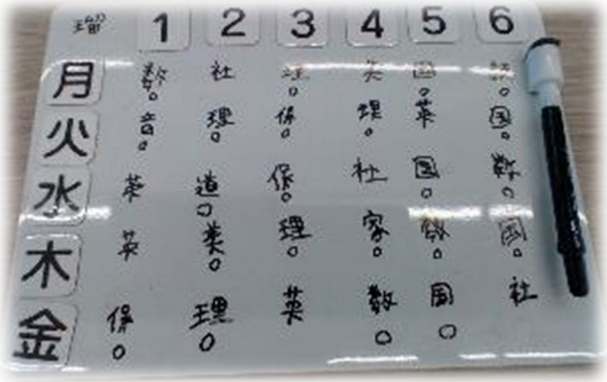
開始日	短期目標（行動内容）	目標達成に向けて取り組むこと	生徒の変容・取り組んだ成果と課題
4月17日	中間試験に向けて国語と社会の試験勉強に取り組む。	教科担当の先生と連携をとり、早めにワークなどの提出物のページ数を本人に知らせるとともに試験に向けた学習のポイントなどを説明しておく。	国語や社会の試験に向けてワークの問題に取り組むなど学習意欲が出てきた。試験の時は国語、社会だけでなく他の3教科も受験した。中間試験の5教科すべてを受験できて自信をつけたと思うが試験が終わると学習意欲が低下した。
5月27日	体育大会に参加して本人は出てみたい競技種目に出ることができる。	担任やクラスの生徒が参加に向けて声かけを行ったり、練習のスケジュール、競技種目の内容などを本人に説明していく。	学級旗づくりを行う中でクラスの仲間が放課後、本人に教室に行って学級旗に手形をつける作業をやろうと誘ってくれたので学級に行って仲間と一緒に作業することができた。体育大会の学年種目や玉入れに出場してみたい気持ちはあった。当日、担任の先生や支援Coが参加を促したが参加することはできなかった。しかし、朝、8:30ごろ登校することができ、3階の図書室から最後の競技までしっかり見ることができた。
6月11日	期末試験に向けて試験勉強に取り組む。	教科担当の先生と連携をとり、早めにワークなどの提出物のページ数を本人に知らせるとともに試験に向けた学習のポイントなどを説明しておく。また、クラスの仲間の試験に向けた学習方法などをSSRに来て話してもらう。	

SSR推進校の日々の様子

一日の目標設定（自己決定）

〇登校・通室した際に、学習予定等、今日することを、できるだけ自己選択・自己決定する。

（例）
A児　1時間目　算数（教室）
B児　1時間目　国語テスト（SSR）
C児　1時間目　社会（オンライン）



SSR推進校の日々の様子

オンラインで教室とつながる

個々に決定した内容に沿って、できることに取り組んでいます。
時には、予定も変更し、目標も設定し直しながら、少しずつ、できることを増やしています。

定期テストをＳＳＲで受ける

SSRでサッカーの練習をして、慣れる

YouTubeで振付を確認しながら、仲間と踊る

卒業通室生への色紙を作成

尾道市における不登校児童生徒支援アシスタント配置状況 R7.1.31時点

学校名／人数	全校児童生徒数	不登校児童生徒数	校内SSR通室児童生徒数（内　不登校者数）	校内SSR通室のち、改善した事例
日比崎中学校	238人	8人	6人 （4人）	・全く登校できなかった子が、スモールステップで教室へも少しずつ上がれるようになった。
因島南中学校	159人	14人	8人 （7人）	・笑顔が増えた。 ・オンラインで授業に参加できるようになった。 ・一日登校できるようになった。
高須小学校	743人	16人	12人 （7人）	・圧倒的に登校日数が増えた。 ・担任や友達との関わりが増えた。
栗原小学校	477人	12人	4人 （2人）	・表情が明るくなった。 ・やりたいことを選択して、できることが増えた。

※不登校児童生徒支援アシスタントとして市費の会計年度任用職員を配置：一日4時間×週4日勤務（教員免許状を必要としない）
※R5は、SSR推進校に配置した。R6よりSSR推進校以外の学校に支援を広げた。R7は12校に拡充し、R9までに全校配置を目指している。

SSRにおける成果と課題

＜主な成果＞
○　通室生の安全・安心な居場所となり、笑顔が増え、表情が明るくなる。
○　登校（通室）日数や滞在時間が増加する。
○　相談する力の向上とともに、自己選択・自己決定できる力が向上する。

＜主な課題＞
△　不登校児童生徒の在籍時間や状況に応じ、在籍学級の教育課程とは異なる教育内容が必要だが、原籍級の教育課程に基づく学習評価を行う上では、適切に評価に反映することが難しい。
△　特に不登校等が長期化している場合、学び直しが必要な場合があるが、限られた登校日数や通常の教育課程の中では、学習の遅れを取り戻しにくい。
△　個々の不登校児童生徒のニーズに応じた個別の指導計画が無いと、担当職員の力量等により対応が左右されてしまい、体系的な学習が困難。

→通常の教育課程では、個々の不登校児童生徒のニーズに対応しきれず、組織的・計画的な指導・支援にあたっての課題があるため、不登校児童生徒等のニーズに応じた柔軟な教育課程を編成・実施するための仕組の創設に向けた研究開発を実施

令和7年度からの研究開発学校としての取組

小中学校における「不登校等児童生徒に必要となる資質・能力」を明確にした上で、教科の新設や統合等を含め、個々の児童生徒に応じた特別の教育課程の編成を検討する。

具体的な取組

- 不登校の「様態」と起因している児童生徒一人一人の背景や状況を考慮し、「様態」の種別に応じた教育課程の編成を検討する。
- 表現活動を柔軟に行い、ソーシャルスキルトレーニングや多様な体験活動等を合科的教育領域として学ぶことができるよう、教科「はっさくタイム（表現）」を新設し、教育課程の編成を検討する。
- 「はっさくタイム（表現）」の時間では、PBL型の時間を設定し、児童生徒自身の興味・関心に基づき、自分なりの問いを立てて、自分なりに答えにたどり着くことのできる力を育むための活動を検討していく。
- 自分のつまずきの原点まで遡って学び直すことができるよう、教科「はっさくタイム（チャレンジ）」を新設し、教育課程の編成を検討する。
- 特別な教育課程の実施方法や評価の方法を検討する。

参考資料

尾道市の教育相談について

「教育相談・不登校支援ガイド」を作成し、市及び市内各校のＨＰに掲載。内容については、教育相談コーディネーター研修会等にて、市内各校で共有。

cocoronomichi相談コーナー

Googleフォームで作成した「cocoronomichi相談コーナー」により、児童生徒は、一人一台端末からいつでも相談可能。相談内容によりレベル分けし、市教委と連携ののち、教育支援センター付きSSWが、各校へ情報提供している。

保護者の方を対象とした、「座談会」を定期的に実施。

尾道市教育支援センターの状況

相談員（主に退職校長先生） 計5人で対応
＋ 教育支援センター付きSSW １人がオンライン相談に対応

	通室小学生	通室中学生	合計通室人数	教育支援センター通室ののち、改善した個々の事例
千光寺さくら	3人	7人 （入室届10人）	10人 （入室届13人）	・親と離れることができた。 ・コミュニケーションを取ろうとすることができた。 ・学校へ復帰できた。
因島はっさく	4人 （入室届5人）	8人	12人 （入室届13人）	・8割以上の通室率で通うことができている。 ・学校へ復帰できた。 ・学校で思わしくないことがあると通室してくる。 ・学習に向かうようになった。 ・人との距離感をつかめるようになった。

尾道市教育支援センター体験活動

～自然体験活動～　年3回

【目的】
〇自然体験活動を通して、達成感を味わい、自己肯定感と自らへの自信を高める。
〇人とかかわることを通して、人間関係能力やコミュニケーション能力の育成を図る。
〇活動を楽しむことを通して、生活への意欲を高める。
【活動内容】
・ひまわりの播種
・福山少年自然の家にて、野外炊さん（ピザづくり）とバードコールづくり
・因島HAKKOパークにて、みかんの収穫

尾道市教育支援センター体験活動

～得意なこと一緒にやりましょう体験～　年3回

【目的】

〇不登校等児童生徒に対し、個々の状況や興味・関心に応じた学びの場を提供することにより、知的好奇心を喚起するとともに、社会とのつながりを促し、学び続ける力を育成する。

〇活動を楽しむことを通して、生活への意欲を高める。

【活動内容】

・R5　プログラミングで音楽づくり・岩絵の具で彩色・茶道で知ろう日本文化

・R6　おもしろ科学実験・言葉で遊ぼう・体を動かして楽しもう

尾道市教育支援センター体験活動

～万田コラボ体験活動～　年間12回

【目的】
〇教育支援センター通室生が様々な体験活動をすることを通じて、自己肯定感と自らへの自信を高める。
【活動内容】
・農業体験（ジャンボ大根・ミニトマトの収穫、サツマイモの播種等）
・動物の餌やり体験（犬の散歩、ヤギの餌やり、ヤギ小屋の清掃）
・清掃活動（海岸のごみ拾い、HAKKOパーク内の落ち葉拾い）
・職業体験（売店での販売等）

体験活動における成果と課題

○　経験値の少ない児童生徒にとっての新たな経験値の向上。

○　一人一人の「やってみたい」と思う気持ちが向上。

○　人と関わりながら体験することにより、コミュニケーション力が向上。

○　体験活動がきっかけとなり、登校につながる。

△　体験しただけで終わってしまうことがあり、評価につながりにくい。